

# 卒業式に見る袴の現代的着装の研究 II : ファッションの視点から

著者名(日)	瀬川 かおり, 田中 淑江, 大塚 絵美子, 長谷川 紗織, 宮武 恵子
雑誌名	共立女子大学家政学部紀要
巻	62
ページ	59-73
発行年	2016-01
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1087/00003064/">http://id.nii.ac.jp/1087/00003064/</a>



## 卒業式に見る袴の現代的着装の研究Ⅱ

### —ファッションの視点から—

A study of wearing modern hakama at graduation ceremony II  
—From fashion viewpoint—

瀬川かおり 田中淑江 大塚絵美子 長谷川紗織 宮武恵子

Kaori SEGAWA, Yoshie TANAKA, Emiko OTSUKA, Saori HASEGAWA, Keiko MIYAKATE

#### 1. はじめに

前稿「卒業式に見る袴の現代的着装の研究Ⅰ」<sup>1)</sup>では、「袴着装の情報は、どのように女子学生に提供されているのか」「袴の装いに流行はあるのか」「情報は、流行を牽引しているのではないのか」「日頃着用している衣服に関する志向と袴着装の関連性や特異性はあるのか」「今後の袴の装い、トレンドの方向性の兆しを読み取ることはできるか」と6つの課題を持って、長年継続研究を行ってきたファッション分析の概念<sup>2)</sup>で調査データを考察した。その結果、女子学生の袴の着装について、卒業式という場面を楽しむための装いは、日頃の着装と同様のファッションとしての概念で捉えている。また着物・袴は、日頃選択しているアイテムと同様の着装のための品種の一つであり、自身の志向を基にして多種多様な商品の中から選択してコーディネートしていることを理解した。この結論は、長年研究している消費者志向、流行、トレンド情報等が重要な基盤となっているファッション市場における商品選択と同じ現象であった<sup>2)</sup>。

この結論を背景として、6つの課題についての裏付けを取るために、長年業界を牽引してき

た袴レンタル業者3社<sup>12)</sup>にヒヤリング調査を行った。その結果、「袴の着装情報を伝えるために、毎年編集するカタログは重要である」「袴の流行は振り袖の流行に牽引される」等の挙げられていた課題に関わる情報や、「大学別に校風があり本学では毎年人気の着物があり、その着物は長い期間愛されている」等の情報を得ることができた。さらに企画提案のサイクルや生産体制等の業界でしか分からない貴重な情報も聞き取ることができた。また2015年3月15日の卒業式当日の着付け会場では、業者の協力を得て観察調査を行った。会場では、着付けを時間内に終わらせなければならない現場の実情やヘア・アレンジはどのように行われているのかなど、着装が仕上がるまでのプロセスを見学した。

前稿をまとめた後に行った業者へのヒヤリング調査や卒業式当日の観察調査を踏まえて、本稿では、卒業式における袴の着装について、引き続きファッション分析の概念を用いて調査分析を行っていく。単に流行現象を捉えるのではなく、流行の先読みや女子学生への提案の仕方・方法等のビジネス展開へと活用できる資料として継続的に研究を行っていく。

## 2. 研究目的

前稿に引き続き、前述した 6 つの課題を持って、平成 26 年度の流行現象を把握するとともに、次のトレンド<sup>3)</sup> 予測を行うことを本研究の目的とする。本稿では、特に色に注目して分析するとともに、昨年に引き続き、クラスター分析<sup>4)</sup> を行い、日頃の装いと袴の着装との関連性や特異性を導き出す。

昨年トレンドとして予測した【レトロ】<sup>5)</sup> な装いが、なんらかの進化・反動に発展していると推測している。アパレル業界では、トレンドとなったテイストやアイテムなどは、次のシーズンに進化・反動して提案されて、流行となる<sup>3)</sup>。この概念に基づき、本調査では、【レトロ】のキーワードが拡大および細分化しているのではないかと仮説をたてて、実態を分析する。ここで捉える【レトロ】は、吉村誠一「ファッション大辞典」<sup>6)</sup>の「ファッションとして用いる(回顧、懐旧の)という意味で、過去を振り返って思いを馳せる感情や昔懐かしいファッションなどを示す」とする。したがって前稿で記述している大正浪漫をイメージする【レトロ】だけに特化したキーワードとしては用いないこととする<sup>5)</sup>。

## 3. 研究方法

研究方法としては、前稿同様に 2 つの視点で分析する。まずは、2015 年 3 月に卒業をした学生を対象としたレンタル用のカタログ「袴」<sup>6)</sup>「卒業時装」<sup>7)</sup>を用いて色についてデータ化する。データ化は両カタログに掲載されているレンタル用品のうちモデルの着装姿を対象とした。対象となる被写体は、「袴」は 52 体、「卒業時装」は 42 体であった。

色のデータ化は以下の方法で行った。色の判定は着物、袴、半衿、伊達衿、半幅帯、足袋、履物、髪飾り、バッグの 9 つの用品で行った。着物、袴、半衿、伊達衿、半幅帯は生地と柄に

表 1-1

色相番号	日本語表記
1	紫みの赤
2	赤
3	黄みの赤
4	赤みの橙
5	橙
6	黄みの橙
7	赤みの黄
8	黄
9	緑みの黄
10	黄緑
11	黄みの緑
12	緑
13	青みの緑
14	青緑
15	青
16	緑みの青
17	青
18	青
19	紫みの青
20	青紫
21	青みの紫
22	紫
23	赤みの紫
24	赤紫

表 1-2

トーン略記号	表記
p	薄い
ltg	明るい灰みの
g	灰みの
dkg	暗い灰みの
lt	浅い
sf	柔らかい
d	鈍い
dk	暗い
b	明るい
s	強い
dp	深い
v	鮮やかな

表 1-3

無彩色記号	表記
W	白
Bk	黒
Gy-2.0-9.0	灰

ついてそれぞれ色を判定した。複数の色が使用されている場合は、各色が占める面積の大きさの順に 3 色まで判定した。なお、複数の被写体で一部分がカタログの紙面からはみ出し、掲載されていない用品がみられた。

色の判定は日本色研配色体系（日本色彩研究所による PCCS ハーモニックカラー 201、以下：PCCS 配色カード）を用いた。PCCS 配色カードは 201 色で構成され、色相とトーンで色を表す表色体系である。色相は 24 色に分割され色相番号が付けられている（表 1-1）。トーンは



図 1-1 絞り柄の例  
『袴』より転載



図 1-2 矢絣の例  
『卒業時装』より転載

明度と彩度の複合軸であり、同色相でも明暗、強弱、濃い淡いなどの色の調子の違いを表現できる。色相ごとにトーンは 12 種に分けられ、略記号で表す(表 1-2)。無彩色は 3 種あり(表 1-3)、略記号で表す。有彩色はトーン記号、色相番号の順で表記し、無彩色は略記号のみで表す(Gyのみ明度数値が付く)。なお、PCCS 配色カードは光沢色を含まないため、“金”と“銀”を選択色に追加した。色の判定は南向きの窓から自然光が差し込む蛍光灯照明下で行い、明るさは照度約 800lxであった。この環境は消費者が自宅のリビングでカタログを見る場面を想定している。色判定者は椅子に座り机の上でカタログと PCCS 配色カードを照らし合わせ、カタログの色にもっとも近い配色カードを選択し、色記号を記入用紙に記入した。色の判定は著者の 1 名が行った。なお、絞り柄(図 1-1)と矢絣の着物(図 1-2)については、生地と柄の区別が曖昧であるため以下のように定めた。絞りの模様は柄の色として判定を行い(図 1-1 では絞りの白は柄の色とした)、矢絣は生地の色として判定を行い、見た目の印象で面積

が大きい順に順位を付けた(図 1-2 では生地 1 位 dp2 (深い赤)、2 位 sf6 (柔らかい黄みの橙)とした)。また、撮影時の照明の当たり方により着物や袴の一部で陰が生じ、同一の色であっても部位により色に変化する。この場合、色の判定は可能な限り照明が当たっている部分で行った。カタログは印刷物であり、掲載されている写真の色は実物と必ずしも一致しないが、その色差は小さく、色の傾向をとらえるという観点では十分な色差の範囲内であると判断した。

次に、被服学科学生における着装の分析では、2015 年 3 月に卒業した被服学科の学生 92 名の卒業式での袴の着装を撮影した共通資料<sup>(注 6)</sup>を用いる。前稿同様に日頃のファッションと照らし合わせて「ストリート系」「萌え・ギャル系」「ゴスロリ系」「モード系」「ノンポリ系」「混在系」の 6 分類に基づくクラスター分析を行い、クラスター毎の袴の装い、色の選択の特色について考察する。色のデータ化は、カタログと同様の手法を用いた。なお、前年調査で疑問となった着装をする上で何が優先されるのか等を判断するために 82 名の予備調査アンケートも実施した。

#### 4. 研究結果

##### (1) 2015 年 3 月卒業生を対象としたカタログの分析

今回の分析では(2)-①で示す学生が重視しているとされる着物と袴に限定して行った。また、見た目の印象にもっとも影響を与える色として面積が最大の色を抜粋し、「代表色」として出現数を集計した。

##### ①着物の色

「代表色」について出現数が多い順に 5 位まで示した(表 2 (1)『袴』(2)『卒業時装』)。また、「代表色」をトーンと色相に分けて集計した。例えば、v2 のトーンは v、色相は 2 と

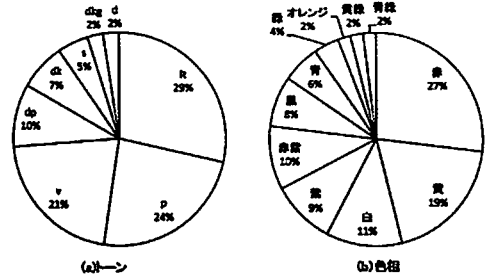
表 2 出現数 (着物)

(1) 「袴」

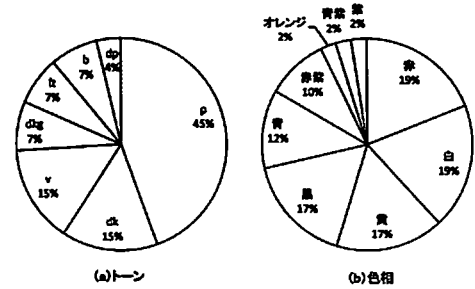
順位	生地		柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	v2	8	W	14
2	W	6	lt24	6
3	p8	6	v2	5
4	Bk	4	dp2	4
5	lt8, lt24	3	lt22	4

(2) 「卒業時装」

順位	生地		柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	W	8	W	5
2	Bk	7	v2	3
3	p8	7	b1	3
4	v1	2	v24, s2, s4, s22, lt24, p2, p22	2
5	dk24, p16	2		



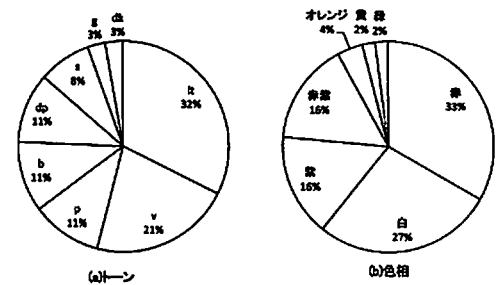
(1) 「袴」



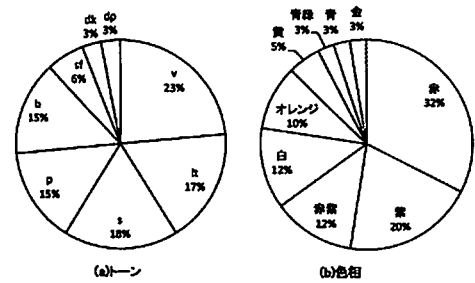
(2) 「卒業時装」

図 2-1 着物の生地 (トーン&色相) (1) 「袴」 (2) 「卒業時装」

なる。色相は番号を以下のように分類した。色相番号 1-3 を赤、4-6 をオレンジ、7-9 を黄、10 を黄緑、11-13 を緑、14、15 を青緑、16-19 を青、20 を青紫、21-23 を紫、24 を赤紫とし、W は白、Gy は灰、Bk は黒として集計した。これらの出現数を全体数に対する割合で示した (図 2-1 着物の生地 (以下:生地) (1) 「袴」(2) 「卒業時装」、図 2-2 着物の柄 (以下:柄) (1) 「袴」(2) 「卒業時装」)。生地の色は、(表 2) から「袴」では v2 (鮮やかな赤)、「卒業時装」では W (白) が 1 位となった (図 3-1、図 3-2)。「袴」では鮮やかな赤の生地に赤や白の花が描かれた着物が多く、「卒業時装」では白の生地に様々な色の花柄をあしらった着物が多くみられた。両カタログで W (白) と Bk (黒)、p8 (薄い黄) が多数みられた。しかし、「袴」で 1 位であった v2 (鮮やかな赤) は「卒業時装」では上位にはみられなかった。(図 2-1) から、トーンでは p (薄い)、lt (浅い) が半数を占め、高明度のトーンが多いことがわかった。色相では



(1) 「袴」



(2) 「卒業時装」

図 2-2 着物の柄 (トーン&色相) (1) 「袴」 (2) 「卒業時装」



図3-1 着物の生地 1位の例  
『袴』より転載

図3-2 着物の生地 1位の例  
『卒業時装』より転載



図4-1 着物の柄 1位の例  
『袴』より転載

図4-2 着物の柄 1位の例  
『卒業時装』より転載

赤、黄などの暖色系と白が多かった。また、紫系も顕著にみられた。白や黒の着物生地は冠婚葬祭で用いられることが多く、袴との組み合わせは数年前までは珍しかったと言える。しかし、近年は着物のコーディネートが多様になり、また白や黒は女性が好む色でもあるため<sup>8) 9)</sup>、カタログの提案色として積極的に取り入れていることが推測される。また、暖色系の色は女性的な印象を与える色であり<sup>10)</sup>、カタログから受ける色の印象に女性らしさを強調することができる。また、紫は普段着では好まれない色である<sup>11)</sup>が、着物では多数みられることも特筆すべき点である。

柄の色は、(表2)から両カタログともW(白)が1位となった(図4-1、図4-2)。白い柄には主に花の模様や絞り柄がみられた。その他、v2(鮮やかな赤)やlt24(浅い赤紫)などが多くみられた。(図2-2)からトーンではlt(浅い)、v(鮮やかな)、p(薄い)などの明度、彩度の高い色の割合が高く、色相では赤、紫、赤紫が6割以上を占めた。着物の柄は主に複数

の花が描かれており、その多くが明るく鮮やかな赤系や紫系であった。

以上の結果から、両カタログで生地では白、黒、暖色系、紫、高明度の色が多く、柄では白、赤、赤紫、高明度、高彩度の色が多いことが示された。一方、生地ではカタログ間でv2(鮮やかな赤)の扱いに違いが生じた。

## ②袴の色

袴の色も着物と同様に「代表色」について出現数が多い順に5位まで示した(表3(1)『袴』(2)『卒業時装』)。また、着物と同様に「代表色」をトーンと色相に分けて集計した(図5-1袴の生地(以下:「生地」)(1)『袴』(2)『卒業時装』、図5-2袴の柄(以下:「柄」)(1)『袴』(2)『卒業時装』)。「生地」の色は、(表3)から『袴』はdk2(暗い赤)、『卒業時装』はBk(黒)が1位となった(図6-1、図6-2)。「袴」では1

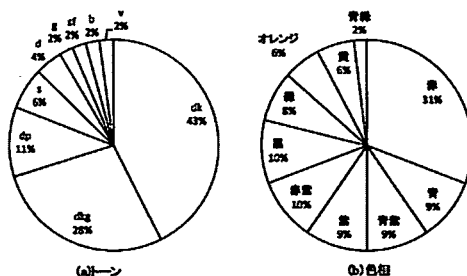
表 3 出現数 (袴)

(1) 「袴」

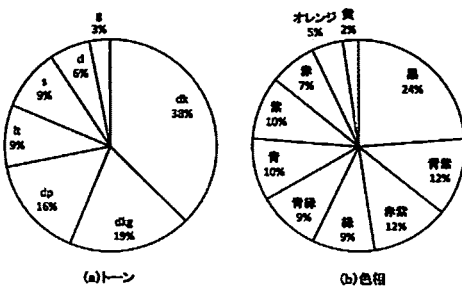
順位	生地		柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	dk2	10	dp2	11
2	dkg18	5	dp4	8
3	Bk	5	W	6
4	dk12	4	b2	3
5	dp20	3	b24, d22	3

(2) 「卒業時装」

順位	生地		柄	
	色記号	出現数	色記号	出現数
1	Bk	10	p2	8
2	dk2	3	p24	5
3	dk14	3	W	3
4	dk18	3	v2, dp24,	2
5	lt22	3	lt22, g12	



(1) 「袴」

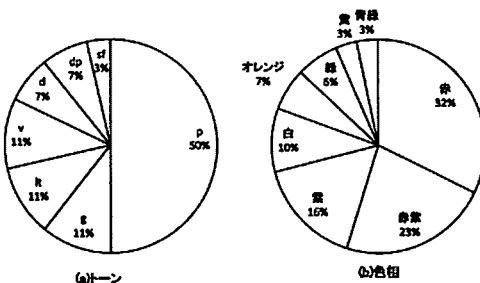


(2) 「卒業時装」

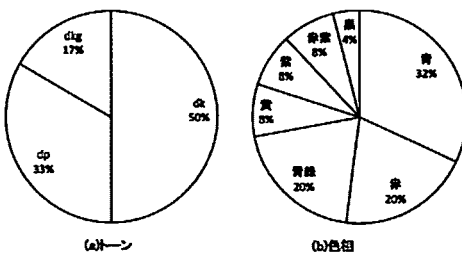
図 5-1 袴の生地 (トーン&色相) (1) 「袴」 (2) 「卒業時装」

位、「卒業時装」では2位のdk2(暗い赤)は海老茶色に相当する色であり、明治や大正時代の袴を象徴する色である<sup>12) 13) 14)</sup>。「袴」では海老茶色の袴にピンクや白の着物生地の組み合わせが複数みられた。また、「卒業時装」ではBk(黒)の袴に白の着物生地の組み合わせが複数みられた。(図5-1)から両カタログにおいてdk(暗い)、dkg(暗い灰みの)、dp(深い)の低明度トーンの割合が高く、7割以上を占めた。また、lt(浅い)やsf(柔らかい)、v(鮮やかな)といった高明度、高彩度のトーンもわずかにみられた。色相はカタログ間で異なる傾向を示し、「袴」では赤が、「卒業時装」では黒が多い結果となった。両カタログで青紫や赤紫が多い点は共通していた。

「柄」の色は、(表3)から「袴」はdp2(深い赤)、「卒業時装」はp2(薄い赤)が1位となった(図7-1、図7-2)。「袴」はdp2(深い赤)の小さい花が、「卒業時装」はp2(薄い赤)の小さい花や穂が描かれた柄が多かった。



(1) 「袴」



(2) 「卒業時装」

図 5-2 袴の柄 (トーン&色相) (1) 「袴」 (2) 「卒業時装」



図 6 - 1 袴の生地  
1位の例  
『袴』より転載



図 6 - 2 袴の生地  
1位の例  
『卒業時装』より転載



図 7 - 1 袴の柄  
1位の例  
『袴』より転載



図 7 - 2 袴の柄  
1位の例  
『卒業時装』より転載

(図 5-2) から『袴』は p (薄い)、lt (浅い)、v (鮮やかな) といった高明度、高彩度のトーンが多かった。一方、『卒業時装』は dk (暗い)、dp (深い)、dkg (暗い灰みの) といった低明度トーンが占め、カタログ間で異なる傾向を示した。色相は両カタログで赤が多い点は共通であった。一方、青は異なる傾向を示し、『卒業時装』では 1 位であるのに対し、『袴』では一例もみられなかった。

以上の結果から、「生地」では低明度トーンや紫系が多い点以外はカタログ間で異なる傾向を示した。「柄」もカタログ間で傾向が異なり、共通な傾向は赤が多い点であった。

## (2) 学生における袴の着装の分析

### ① 全体の傾向分析

アンケートの設問「成人式に着用した着物・自作した着物を卒業式に着用する予定ですか」については、「はい」が 35%、「いいえ」が 65% という結果であった。次の設問「袴の装いを選ぶ際、重要なアイテムを下記から選び、優

先順に記載してください」とし、それぞれの着物が自前か自前でないかを踏まえて袴の装いに重要なアイテムが選択できる解答形式にした。優先順位として 3 位まで記述し、集計については、1 位記載の単純集計と 1 位から 3 位までの記載を合計した複数集計としてデータ化している。着物が自前の学生は、最重要なアイテムが袴であり、複数集計からはヘア・スタイル、半衿・伊達衿の順となった。着物が自前でない学生は、圧倒的に着物を 1 位に上げている。これらのことから、着物が自前の場合には着物ありきで袴を選ぶと推測でき、着物が自前でない場合は着物を 1 位に上げていることから着物を最重要アイテムとしている傾向が読み取れる。複数回答では、袴、ヘア・スタイル、半衿・伊達衿の順で、袴の装いでは、着物と袴以外ではヘア・スタイルが重要であると考えている。「袴の装いについて重要なこと」の設問では、着物の色が重要で、全体の雰囲気や着物の柄、袴の色が続く。総括すると、袴の装いには、着物の選択が優先で特に色については重要である





(1) アップの例



(2) ハーフアップの例

図 8 すっきりとした印象のヘア・スタイル例

と考えている結果となった。

着装分析で特徴的なことは、前稿で一般化したとしているブーツを合わせるコーディネートとの減少である。昨年の分析では 52% がブーツを合わせていたが、今年は 30% である。一方、白足袋に草履の着装が増えている。昨年は柄足袋やレース足袋などが見られたが、白足袋を合わせている。また、(図 8) のように髪型はアップにまとめる、ハーフアップにまとめるなどのすっきりとした印象のヘア・スタイルが多くなっている。これは、前稿の結果からトレンドとして予測として取り上げた傾向と合致している<sup>15)</sup>。そして、昨年は、袴の着装をせず振袖のみの着装は一人もいなかったが、今回は 3 名みられたことも新しい現象として記述する。

色の分析結果として、着物の生地では、W(白)がもっとも多く、次いでv2(鮮やかな赤)やp2(薄い赤)、dp2(深い赤)がみられた。W(白)、v2(鮮やかな赤)はカタログでも上位の色で

あり、傾向が一致した。p2(薄い赤)、dp2(深い赤)はカタログでは上位にはみられなかった。p2(薄い赤)はピンクに相当し、女性的な色であり一般的に女性に好まれる色である<sup>16)</sup>。また、dp2(深い赤)は『卒業時装』の矢舻の色に提案されている色と一致する。『卒業時装』の調査対象の 42 体のなかで矢舻の着物は 1 体のみであった。この『卒業時装』の矢舻の着物をレンタルした数は、本学学生が『卒業時装』から着物をレンタルした総数の 15% を占め、『卒業時装』の他の着物の中で群を抜いていた。矢舻の着物は明治や大正時代における女学生の袴姿に好まれる柄であり<sup>17)</sup>、本学学生には人気があった。このように、女性的なピンク、【レトロ】をイメージさせる着物の生地が好まれる傾向もみられた。また、カタログでは紫系の着物生地が多くみられたが、学生では多くはみられなかった。袴の生地では、dk18(暗い青)、dp18(深い青)の順に出現数が多く、全体の 3 割を占めた。このような低明度の青はカタログでも出現数は比較的多いが、学生には非常に人気があることは特筆すべき点である。その他、dk14(暗い青緑)、dk2(暗い赤)、Bk(黒)と続いた。Bk(黒)は両カタログで上位に位置している色であるが、学生にはそれほど人気は高くはないことが示された。

## ② クラスタ別分析

クラスタ別の分析は前稿同様に、日頃の装いと予備調査を照らし合わせて、分類した。集計した結果は「ストリート系 35%」「萌え・ギャル系 34%」「混在系 20%」「ノンポリ系 4%」「ゴスロリ系 4%」「モード系 3%」となった。サンプル数が少ない「モード系」「ゴスロリ系」「ノンポリ系」は排除し、「ストリート系」「萌え・ギャル系」「混在系」について、袴の装いの特異性を述べていく。

「ストリート系」は、着物の色・柄と袴の色の組み合わせ、まとめた髪型、小物を合わせた全体的な装いは、【レトロ】なイメージを感じ



図9 「ストリート系」における【レトロ】なイメージのコーディネート例



図11 アンティーク着物のイメージの着装例



図12 雑誌などに取り上げられるイメージに類似しているコーディネート例



図10 矢羽柄の着物、無地の袴、白半衿、白足袋、草履の着装例



(1) ローファー



(2) 柄足袋



(3) 白足袋に草履



図13 「ストリート系」における足元の変化

(1)(2)平成25年度卒業生 (3)平成26年度卒業生

させるコーディネートが好まれていた(図9)。  
【レトロ】なイメージを基本にしながら、様々な装いが見られる。(図10)のように、矢絰の着物、無地の袴、白半衿、白足袋、草履、髪型はまとめているという、かつての女学生そのままの装いを感じさせるコーディネートや、色や柄から古い着物いわゆるアンティーク<sup>注7)</sup>着物のイメージを醸し出しているコーディネート(図11)、大正浪漫と称され、雑誌など<sup>18) 19)</sup>で取り上げられているイメージに類似したコーディネート(図12)などがみられた。日頃から

お洒落に興味があり、ファッションに関する情報やトレンドを積極的に取り入れようとするこのクラスターでは、【レトロ】をキーワードに個性豊かに装いを楽しんでいる。日常的に古着



図 14 「萌え・ギャル系」にみられるデコラティブなコーディネート例

を着用し、一般的に流行している古着ショップではなく、こだわった一点物を提案している古着店で買い回る学生が、このようなコーディネートをしていることは特記すべき点である。昨年と比較すると、特に足元に変化が見られる。昨年は、他のクラスターには見られない個性を強調するローファーや柄足袋などを取り入れていたが、本調査では、白足袋に草履といういわゆる伝統的な和の装いが多い傾向となっている(図 13)。色としては、着物に明るい鮮やかな赤を選択する傾向がみられた。赤以外にさまざまな色の着物が選ばれているのも特徴であり、伝統的な色だけでなく、個性的な色を選ぶ傾向がみられた。

「萌え・ギャル系」は、日頃から華やかなスタイルを好むこのクラスターは、袴の着装も昨年同様に女性らしい華やかな装いを好んでいると言える。通称ギャル・ファッションとされている非常にデコラティブで可愛いアイテムを沢山用いている(図 14)のようなコーディネートや、(図 15)のような女性らしい花のモチーフの刺繍が施された半衿や伊達衿の色なども工夫をし、華やかで上品な印象のコーディネートが見られた。また、昨年では、このクラスターには見られなかった大正浪漫をイメージする装

(1) 花のモチーフの刺繍が施された半衿 (2) (1) の全体のコーディネート



図 15 「萌え・ギャル系」にみられる華やかで上品なコーディネート例



(1) 大正浪漫をイメージする装い (2) 色無地の着装

図 16 「萌え・ギャル系」における平成 26 年度の特徴的なコーディネート例



(1) 振袖

(2) 和をイメージする着物

(3) 大正浪漫風着物

図17 「混在系」における様々な着物の着装例

いや色無地などの伝統的な装いは平成26年度の特徴的な現象である(図16)。これらのことは、トレンドとして予測していた【レトロ】なイメージを取り入れた装いと言い換えることができる。ヘア・スタイルは、極端に強調した巻き髪が減り、アップやハーフアップなどが増え、足元はブーツや白足袋に草履を合わせて、それぞれの好みで和の装いや【レトロ】なイメージを取り入れたコーディネートが見られた。色としては、赤、赤紫の着物が好まれ、このクラスターの学生の半数以上が選択していた。赤の女性的な華やかさと紫の雅なイメージが好まれる傾向がみられた。

「混在系」は、「ストリート系」と「萌え・ギャル系」の良いところを取って装う2010年頃から急速にのびてきたファッション・テイストのクラスターで、近年では細分化する傾向にある<sup>20)</sup>。日頃の装いと同じく、袴の着装においても、華やかな振袖、和をイメージする着物、大正浪漫風着物など、様々な着物を取り入れて着装している(図17)。昨年の分析では、袴の選



図18 「混在系」にみられる個性的な着物の着装例

択や伊達衿を何枚も重ねていたりなどのこだわった装いが見られた<sup>21)</sup>。平成26年度も引き続きこだわった装いが見られ、特に着物の選択は、他のクラスターには見られない個性的な着物を選んでいる(図18)。ヘア・スタイルは、華や



(1) 華やかな巻き髪 (2) ポブをベースとしたヘア・スタイル

図 19 「混在系」にみられるヘア・スタイル例

かな巻き髪と流行のポブをベースとしたヘア・スタイルが主流であった(図 19)。このように、流行を取り入れながら自身の個性に合う選択をするというこのクラスターの特徴がわかる装いである。足元は、他のクラスターと同様に、白足袋に草履の合わせが好まれていた。色としては、白生地に着物が好まれ、このクラスターの学生の約 4 割が選択していた。全学生の集計結果でも白が一番人気であったため、学生全体の傾向を象徴しているグループともいえる。しかし、着物の柄は多種の色が好まれ、着物の柄色で個性を強調しているのかもしれない。

### 5. 考察とまとめ

以上のような結果から、本論の考察を二つの視点でまとめる。一つ目はカタログ及び学生の着装資料を基にした色の分析からの視点と、二つ目は 26 年度の袴の装いでみられた傾向及びファッション分析からの視点である。

まず着物の色の分析からの視点では、類似した結果と異なる結果が明らかになった。カタログと学生調査の両結果で W (白) は、多く取り入れられていた。また、v2 (鮮やかな赤) も両結果で上位であり、傾向が一致したといえる。これらの色は近年の女子学生において着物の色として好まれる傾向があり<sup>22)</sup>、同様な結果となった。一方で、カタログでは上位であった

Bk (黒) や紫系は本学学生には人気がなく、カタログではあまり取り上げられていない p2 (薄い赤、ピンクに相当)、dp2 (深い赤) が、学生には取り入れられていた。黒は近年の女子学生には着物の色として好まれる傾向がある<sup>23)</sup> が、本学学生はピンクのような淡い明るい色をより好む特徴がみられた。また、dp2 (深い赤) は矢絨の着物に多くみられ、明治や大正時代の女学生をイメージする着装を好む傾向もみられた。紫は歴史的には高貴な身分の者が身に着ける色として扱われ、着物の伝統的な色の 1 つであるため、カタログに積極的に取り入れられている色であると推測される。一方、女子学生は普段着で紫を好まない傾向があるため<sup>24)</sup>、日頃選択している着装をそのまま取り入れ、紫の選択が少なかったと推測される。袴の色については、両カタログと学生調査のそれぞれの結果には類似性が見られない点が多かった。しかし、着物の生地は高明度、柄は高明度、高彩度で華やかな印象であり、それに合わせる袴は低明度の落ち着いた色である点は一致していた。この結果を色彩科学的観点からとらえると、このような明度のコントラストが強い組み合わせは、明度対比の効果が生じ、明るいものはより明るく、暗いものはより暗く見せるため<sup>25)</sup>、着物と袴の見え方を互いに強調し合うことができる。また、明るい色は軽く、暗い色は重い印象を与えるため<sup>26)</sup>、軽い色の下に重い色という着物と袴の色の重力関係が一致し、安定した見た目の印象を与えていると解釈できる。両カタログでの提案色の違いは、各カタログが打ち出すコンセプトの違いが影響すると推測され、カタログに掲載されている見出しなどをもとに今後の検討課題としたい。また、本調査で本学学生に好まれていたピンクの事象のように本学特有の傾向であるのか、流行色やトレンドとの関連性などについては継続的な調査が必要であると考えている。

次に、ファッション分析からの視点では、クラスター分析については、昨年同様に、日頃の

装いに応じて袴の着装も、それぞれのクラスターに特徴がみられた。昨年トレンドとして予測した【レトロ】な装いは、昨年度調査では、日頃の装いでファッションに興味があり、他の学生からも「おしゃれ」であるとされている一部学生にその傾向が見られただけだった。平成26年度調査では、かつての女学生の着こなし、アンティーク着物、大正浪漫のイメージなど、それぞれの個性や好みに合わせて【レトロ】なイメージを取り入れて装うなどの細分化している実態を抽出できた。また、白足袋に草履を組み合わせる装いを多くの学生が取り入れ、髪型は小さくまとめるなど、和の装いが目立った。本調査における【レトロ】は〈懐古的な、リバイバルの〉という意味で、過去のスタイルを思わせる懐古的なファッションとして捉えるレトロ・ファッションとして言い換えることができるのではないだろうか<sup>27)</sup>。これらの現象は、先に述べたアパレル業界でとらえているトレンドと類似している。次年度は、このトレンドが拡散すると予測する。一方で、流行すると他とは異なる装いを求める志向も芽生える<sup>28)</sup>。例えば、26年度であれば日頃ファッションに興味のある学生が着用していた袴の着装をしない振袖のような例である。さらに、平成26年度と平成25年度調査を比較すると、華美な装いは極めて少なく、全体に落ち着いた印象の装いである。ヘア・スタイルはコンパクトにまとめ、襟元、足元、アクセサリ等のそれぞれのアイテムは装飾性が少ない、シンプルなものを選択する傾向であった。これらの現象は、現在のファッション市場におけるシンプルベーシックなトレンド<sup>29)</sup>と類似すると言える。

今後の研究の方向性は、前述した6つの課題に合わせて、袴の装いに関するトレンドを予測するための調査資料の蓄積を行う。将来的には、女子学生が好む袴のコーディネートや具体的なデザインを考えるための分析資料となる研究目標を持っている。そのためには、その年の流行現象を捉え、継続的な研究が必要である。

本調査で開始した色については、袴の着装で指示される色と一般的な流行色との関連、本学学生独自で好まれる色の傾向はあるのか等を明らかにしたい。さらに、日頃のファッションとの関連性やそのシーズンに支持されているファッション現象が袴の着装にも反映されるのかなども継続調査を行っていく。ファッション業界ではトレンドの周期性があるが、袴の装いには、その概念があるのかも振袖の流行との関連性も含めて発展的な研究課題と考えている。

## 注

注1) ファッション分析の概念とは、2004年の予備調査から発展し、現在継続中の研究「女子学生のファッション意識についての研究」の研究手法・分析、その結果から導き出した流行の予兆・トレンド、検証のプロセスとしている。この研究における研究手法は、記述式アンケート調査で、質問項目は「指示するブランドや雑誌」「情報収集の取り方」等である。継続的に人気のあるブランドや雑誌を把握し、一方で新しい現象も捉える事ができ、消費者の実態を探る上では学術的及び実務的にも活用できる資料となっている。この概念に基づき、袴着装の実態を分析している。1), p.27

注2) 晴れ着の丸昌、マイム、ジョイフル恵利の3社である。

注3) 〈傾向、時代の風潮、その時々々の流行の型〉などの意であるが、大きく二つの意味でつかわれている。一つは最新の流行の動向をいう。もう一つは時代の好み、つまり売れ筋の流行をさす。本稿では、最新の流行・売れ筋の流行全般の傾向・方向性としている。大沼淳・荻村昭典・深井見子監修、ファッション辞典、文化出版局、2012年2月、p.263

注4) 前稿同様、2007年から実地している

調査分析から、各クラスターについて以下のような概念として分類する。「ストリート系」は、1997 頃から始まった裏原宿から発祥したカジュアル・ファッション。「萌え・ギャル系」は、渋谷 109 で展開されているギャル系ファッションや赤文字系ファッション雑誌に見られるようなファッション。「ゴスロリ系」は、音楽や映像の影響を受けたマニア性の高いファッション。「モード系」は、東京モードデザイナーのテイストを取り入れた個性あふれるファッション。「ノンポリ系」は、価格で安いことを重視してアイテムを選択するファッション。「混在系」は、「ストリート系」と「萌え・ギャル系」の良いところを取っているファッション。

注 5) 「卒業式に見る現代的着想の研究 I」では、2014 年 3 月に NHK で放映された「美の壺 卒業式の着物」で放映された大正浪漫を思わせる装いと同様の傾向をとりいれた本学学生の装いを取り上げて、トレンドであるとした。本学学生は、日頃の装いでファッションに大変興味があり、お洒落であると認識されている学生がこの要素を取り入れた袴の装いをしてきたことからトレンドであると推論している。1), p.43

注 6) 2015 年 3 月 15 日に行われた共立女子大学の卒業式当日に被服学科学生 92 名の袴の着姿を撮影した。撮影箇所は 1 全身正面、2 全身背面、3 全身右側面、4 上半身、5 衿元、6 足元、7 頭部、8 髷、9 ネイルの 9 カットである。先行研究と同様に卒業式に見る袴の現代的着装の研究 II - 伝統的な視点から - に記載されている図 1 を共通資料とする。

注 7) 「骨董な、古めかしい」また「古い時代の、古来の」といった意味で、骨董的な価値のある古着をアンティークファッ

ションなどというように用いる。吉村誠一、ファッション大辞典、織研新聞社、2011 年 4 月、p.3

#### 引用・参考文献

- 1) 田中淑江・長谷川沙織・大塚絵美子・宮武恵子、卒業式に見る現代的着想の研究 I、共立女子大学 家政学部 紀要 第 61 号、2015 年 1 月
- 2) 1) に同じ。
- 3) 宮武恵子、ファッション・デザイン発想に関しての知見 - コレクション分析を基にしたファッション・トレンド情報 -、第 17 回日本感性工学会大会、2015 年 9 月
- 4) 吉村誠一、ファッション大辞典、織研新聞社、2011 年 4 月、p.3
- 5) 1) に同じ。
- 6) はかま、主催マイム協賛ハクビ、2014 年
- 7) 卒業時装、丸昌、2014 年
- 8) 神谷綾子・石原久代、振袖の着姿イメージに關する色彩要因の検討、繊維製品消費科学 第 49 号、2008 年 12 月 p.59-68
- 9) 近江源太郎、色彩心理学入門、日本色研事業株式会社、2006 年 1 月 p.67
- 10) 9) に同じ。
- 11) 藤田恵子、学生の被服製作における布の色選択と雑誌のトレンドカラー、東京家政学院大学紀要 第 49 号、2009 年 p.17-24
- 12) 長崎盛輝、日本の伝統色彩、京都書院、1988 年 1 月、p.32
- 13) 難波知子、学校制服の文化史、創元社、2012 年 2 月 p.173
- 14) 城一夫・渡辺明日香・渡辺直樹、日本のファッション、青幻舎、2014 年 3 月 p.266-267

卒業式に見る袴の現代的着装の研究Ⅱ

- 15) 1) に同じ。
- 16) 清澤雄. かわいい色の調査結果に基づく  
評価者のクラスター分類とその嗜好特  
性. 日本感性工学会論文誌, 13 巻 1 号,  
2014 年 p.107-116
- 17) 13) に同じ。 p.169
- 18) 大野らふ. 振袖&袴の大正ロマン着物帖.  
河出書房新社, 2014 年
- 19) 中山麻子・菊池咲絵. いまどき振袖ガー  
ルのつくりかた. 2013 年, 小学館
- 20) 岡本正大・宮武恵子. 女子学生のファッ  
ション意識に関するアンケート調査 ～  
リアル・クローズ・ファッション研究～.  
ファッションビジネス学会全国大会,  
2011 年 10 月 22 日
- 21) 1) に同じ。
- 22) 8) に同じ。
- 23) 8) に同じ。
- 24) 11) に同じ。
- 25) 大山正. 色彩心理学入門. 中央公論社,  
1994 年 1 月, p.28, p.210
- 26) 25) に同じ。
- 27) 大沼淳・萩村昭典・深井見子監修. ファ  
ッション辞典. 文化出版局, 2012 年 2 月,  
p.221
- 28) 中島ゆうこ. 売れるファッションの見つ  
け方・つくり方. 織研新聞, 2012 年 12 月,  
p.4
- 29) 織研新聞 2015 年 9 月 16 日